

未利用材を燃料にした木質バイオマス発電所 「グリーン発電大分天瀬発電所」が商業運転を開始

11月12日(火)、大分県日田市の木質バイオマス発電所「グリーン発電大分天瀬発電所」が稼働を開始しました。

未利用間伐材を主に使用する木質バイオマス発電所の稼働は、平成24年7月に福島県会津若松市で稼働した「グリーン発電会津」に続いて2番目となり、地域の林業活性化や森林再生へつながることが期待されています。

乾燥木質チップを燃料に1時間当たり5,700キロワットを発電し、そのうち5,000キロワットが送電されます。燃料となる未利用材は、日田玖珠地域の森林組合など18社でつくる日田木質資源有効利用協議会によって供給されます。

豊富な森林資源に恵まれた大分県日田市は、林業や製材業を中心とする木材産業が地域の主要な産業となっています。「グリーン発電大分天瀬発電所」の大きな特徴は、燃料となる林地残材等の未利用材の集積場、それらの材をチップにして燃料化する施設、乾燥・発電設備が1か所にあること、木質バイオマス発電の過程を一堂に見られることです。

「この施設の発電によって削減される二酸化炭素の量は、年間約36,700t、原油で換算すると年間約23,000klの削減になります。山の残材に付加価値を付けて燃料化し、発電に使うことで地域の林業再生につながる」と語るのは、株式会社グリーン発電大分社長の森山政美さん。これまでその多くが山林に残置されてきた根切り材や間伐により生じた林地残材といった地域の未利用材を利用することで、森林の持続的な再生の仕組みづくりを目指したいとのこと。今後、全国各地で同様の施設の普及・活用が期待されます。

お問い合わせ 株式会社 グリーン発電大分 ☎0973-28-5112

ホームページ <http://www.gho.co.jp/>

国産スギ材の木製架台を採用した 「住友林業鹿島ソーラー発電所」が稼働開始

11月6日(水)、住友林業株式会社が茨城県鹿嶋市の同社遊休地に設置した太陽光発電施設「住友林業鹿島ソーラー発電所」の稼働が開始されました。

この施設のソーラーパネルを設置する架台のうち、約4分の1には、同社の木化事業の一環として、国産スギ材を使用した木製架台が採用されています。

「住友林業鹿島ソーラー発電所」は、住友林業株式会社が平成24年度に認定を受けた経済産業省の「再生可能エネルギー」の固定価格買取制度を利用した同社グループ初の太陽光発電施設です。この施設には、林業活性化のために木材の用途開拓を推進してきた同社が企画・設計・施工した、国産スギ材の木製架台が採用されています。

国内で広く使われている10.5cm角のスギ材を利用した木製架台は、

塩害に強く、軽量で施工がしやすいことが特徴です。架台の部材は工場ですべて組立済みのため、現場で組み合わせることができ、敷地条件に合わせて構造計算を行うことで強度を高めることも可能です。また、施設の建設過程で排出されるCO₂を削減することができます。「当社は

木造化・木質化を通じて、木材資源の用途拡大を図る木化事業を推進しており、その一環として自社企画の木製架台を開発しました。鋼製架台を超える高いコスト競争力を持ち、約20年の耐久性があって、耐久年数後にはバイオマス燃料のチップなどへの転用が可能です」と、住友林業株式会社木化営業部チーフマネージャーの熊川佳伸さん。

今後は同社の木材・建材流通事業がもつ調達能力を活かし、地域材の有効活用も視野に入れて木製架台の事業化を図っていく方針とのこと。

お問い合わせ 住友林業 株式会社 木化営業部 ☎03-3214-2535

ホームページ <http://sfc.jp/>



天瀬発電所全景



木質バイオマス発電設備



住友林業鹿島ソーラー発電所



国産スギ材を使用した木製架台(施工中)